

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： 認知症高齢者グループホームさんりく

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370300196		
法人名	社会福祉法人三陸福祉会		
事業所名	認知症高齢者グループホームさんりく		
所在地	〒022-0101 岩手県大船渡市三陸町越喜来字所通91		
自己評価作成日	令和3年11月19日	評価結果市町村受理日	令和4年2月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、小規模多機能型施設・ディサービス・特別養護老人ホームと併設になっており、昔からの知り合いが多く利用しています。馴染みの人と会話をしたりお茶を飲んだりと交流もできます。また、医療面では地域の診療所の医師と常に連絡を取り連携を図っているため、利用者やその家族は安心して過ごしています。今年の敬老会では、感染症対策の為地域と合同で行うことはできませんでしたが、感染状況を見ながら合同での敬老会開催を再開したいと思います。職員は基本理念である「ゆったり楽しくその人らしく」を心掛けながら日々の介護に努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大震災からの様々な苦難をのり越え、総合的な介護施設の運営も軌道にのりかかった矢先にコロナ禍に遭遇し、様々なリスクを乗り越えながら今日に至っている。併設の事業所に囲まれているため、利用者の状況に応じて住み替え等の対応が可能であり、本人・家族の支えになっている。また近くにある町の診療所では、利用者全員の主治医として、訪問診療も可能となっている。施設の1階には広い「地域交流ホール」が備えてあり、町が指定する避難場所ともなっている。そこでは敬老会やクリスマス会等の多彩なイベントを開催することも可能であり、コロナ禍収束後には町内の方々や小中学校との世代を超えた交流の再開が期待される。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年12月15日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : 認知症高齢者グループホームさんりく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が常に理念を確認できるように玄関やホールに掲示している。また、会議やミーティングで理念を確認して共有できるように努めている。	「地域と共にその人らしく」を理念とし、「ゆったり楽しく、その人らしく」を心掛けて介護に取り組んでいる。理念が確認できるよう、玄関などに掲示しているほか、会議や研修などで支援場面を振り返り、実践に反映されているか話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	今年はコロナの感染症対策のため、地域の人達と直接交流することはできなかったが、こども園や小学校からDVDやメッセージが届けられたので、お礼のプレゼントを渡して交流を行っている。	コロナ禍前は、商店会での催し物やこども園・小中学校で行事があれば声が掛かり出掛けていた。コロナ禍の今は、こども園や小学校の児童と手紙やDVDなどで交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民等から相談があれば丁寧に対応するように心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは、地域の主たる人達で構成している。コロナの感染症対策の為開催できていなかったが来月開催を予定しているので、取り組みを報告して委員から意見が寄せられた時はサービスに活かしたいと考えている。	委員は、公民館長や地区民生委員など地域の主だった人達で構成している。入居者の状況や活動状況を報告し意見をいただいております。地域課題が取り上げられることもある。コロナ禍のため、会議を開催できていなかったが、この12月は集合での開催となっている。	推進会議の開催が中止の場合には、書面会議という形で、資料を委員に送付して意見等を伺うことも可能と思われるので、工夫されるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市の担当者が参加しているので、事業所の考え方や現場の実情が報告できる。今年はコロナの感染症対策の為、会議が開催できていなかったが来月実施予定である。	市の担当課とは、介護保険などの事務手続きの際に情報の交換を行っており、円滑な意思の疎通が出来る関係にある。何かあれば、市から委託を受けている在宅介護支援センター照会している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者は常に自由に動くことができるように身体拘束や施錠は行わず、職員は利用者の安全を確認しながら対応している。ただし、夜間は玄関のみ施錠を行っている。言葉による拘束は、職員がお互いに意識しながら取り組んでいる。	検討委員会を毎月開催しているほか、虐待予防についての研修も行っている。毎月の職員会議で個別ケア・困難事例を確認し、趣旨を徹底している。玄関の施錠は、防犯目的で22時から翌朝7時までとしている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームさんりく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待・言葉の虐待について、研修会を行ったりマニュアルを確認することで、職員は注意を払いながら日々のケアの対応に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要とされる利用者は現在いないが、勉強会を開きながら必要とされた時に対応できるように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービスの利用開始前や介護保険改正には、必ず家族に丁寧に説明を行い理解納得が頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所する機会を作り、利用者の状態を報告しながら、家族からの意見や要望を聞くように努めている。	入居者本人が職員に、意見や希望を伝えられる機会作りができており、出された意見を日々の運営に生かしている。家族にも意見・要望などを表せる機会づくりをしており、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議やミーティングの時に職員から意見が出されるので一緒に検討している。	毎日の申し送りや職員会議で意見・提案が出される。冷凍保管できるストッカーを購入したり、車いすを購入したり、必要な支援を柔軟に提供するために、管理者が現場職員と一緒に話し合いながら支援の仕方などを調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の家庭事情にも配慮しながら、無理のない勤務体制を作っている。また、コミュニケーションを取りながら仕事にやりがいを持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人や事業所で開催する研修会に参加して、職員の知識や技術の向上に努めている。また、資格取得の為研修や講習会にも参加している。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホームさんりく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの感染症対策の為外部の研修会に参加する機会は少なかったが、少ない研修の中で交流を行い意見交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する前に何度か本人や家族等から情報を収集しカンファレンスを行い、利用者が安心して生活を送ることができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に何度か家族と面談し話を聞くように心がけている。家族の様々な思いを受け止め、少しでも不安が解消できるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の話に耳を傾け、一番困っていることや何を必要としているかを見極めて、他のサービスについても丁寧に説明を行い不安や悩みの解決に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行動や精神状態・身体状態がその日によって異なることがあるが、本人の表情や言動・行動から思いをくみ取りながらコミュニケーションをはかり、信頼関係を築くように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所した時に本人の状態を把握して頂き、本人を支援するために必要な支援を家族と考えるように努めている。感染症対策で家族が来所できない時は電話で報告して支援を検討することもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や人の把握に努めている。コロナの感染症対策の為外出する機会は少なかったが、多機能ホーム利用者にも顔馴染みが多いので行き来させるようにしている。	入居時には、本人・家族からお茶飲みや買い物の場所など馴染みの人や場所を聞いている。コロナ禍前は、近所の人や知り合いの方も面会に来ていた。今は、顔馴染みの方が利用している隣接の小規模多機能ホームの利用者と交流している。	

事業所名 : 認知症高齢者グループホームさんりく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者を観察し気が合う合わないがある時は、座席の工夫を行っている。また、一人での利用者には話しかけて寄り添うこともある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	身体機能の低下により、家族と相談した上で特養に入所したが、入所後も必要に応じて相談等の支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションを図りながら思いや暮らし方を聞き、希望に添える支援ができるように努めている。困難な場合は、行動や表情から読み取ったり家族と相談しながら対応に努めている。	思いや意向は、家族や時折出掛ける併設事業所の情報から把握したり、本人との会話の中で確認している。その情報は、申し送りノートなどに記入し職員間で共有している。言葉で思いを表すことが困難な利用者は、仕草や表情から推察したり、側で丁寧に話を聞くよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話の中で確認したり、家族や前に関わったサービス事業所からも情報収集し把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で状態を観察し把握に努めている。普段と状態が違うことに気付けるようにケースに記録し申し送りをを行いながら職員間で共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員で話し合いを持ちながら、本人や家族の考えも取り介護計画を作成している。会議やミーティングでモニタリングを行いケアの見直しを行っている。	モニタリングは3か月毎に行い、6か月毎に介護計画を見直ししている。計画の内容を変更する場合には、職員会議やミーティングで話し合い、本人や家族の意向を反映した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートやケース記録を活用して情報を共有している。利用者の状態変化の時は会議やミーティングで見直しを行っている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームさんりく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに合わせて家族と相談したり、職員間でも話し合いながら、臨機応変に支援できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの理美容店や診療所の利用が継続できるように協力を頂きながら取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望によりかかりつけ医を決めている。定期受診以外でも、状態により往診対応も行っている。主治医と家族が面談することもあり安心して生活を送っている。	入居者は、町内二つの診療所を利用しており、本人・家族の希望でかかりつけ医を決めている。受診介助は、ほぼ職員で対応しており、受診結果は家族に報告している。健康状態の変化がある時には、家族も同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診介助は看護師が対応している。日々の状態を把握し適切に主治医に伝えて指示を頂くようにしている。介護員は利用者の状態変化に気付いた時はすぐに看護師に報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は医療機関と連絡を取り合い状態の把握に努めている。退院の時期も病院と家族が相談し、スムーズに受け入れができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の希望の把握に努め、事前に「看取り確認書」を記入して頂いている。状態に応じて家族と主治医の面談があり、事業所のできる部分を理解して頂いたうえで対応している。	入居時に、家族に「看取り」について説明し同意を得ており、状態の変化に応じて家族の意向を改めて確認し、話し合いを行っている。令和3年は、2名の入居者を看取っている。	

事業所名 : 認知症高齢者グループホームさんりく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡体制図やマニュアルを作成し周知徹底を図っている。応急手当や初期対応については内部研修で対応の確認を行い、定期的訓練で身に付けられるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人の防災計画のもと避難訓練を実施している。地域の福祉避難所の指定を受けているので、地域の防災対応の拠点として機能することができるように努めたい。	夏と秋に消火・避難訓練を行っている。また、土砂災害を想定して3階に垂直避難する訓練を行っている。事業所が入る建物にある8つの事業所は、防災、災害対応などで協力している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者の性格や状態を把握し対応を行っている。排泄や入浴の時の配慮はもちろんのこと、言葉遣いにも十分注意しながら対応している。	トイレでは外で見守り、入浴時には肌の露出に注意するなど、利用者の心情に配慮した対応をしている。職員が利用者に向けて発している言葉が、馴れ合いにならないよう会議で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中でコミュニケーションを図り、利用者に指示するような声掛けではなく、自己決定できるように話しかけるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の理念である「ゆったり 楽しく その人らしく」をモットーに、利用者の状態を把握しそれぞれのペースに合わせて柔軟な対応を行うように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者は衣類を自由に選んで脱ぎ着できるようにしている。タンスの中の整理は職員が行い、季節に応じて衣類の入れ替えを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を把握し、調理方法を聞きながら支援したり、利用者によっては簡単な調理作業や片付けを職員と一緒にすることもある。	主に職員が食事に関する一連の作業を行っているが、利用者も茶碗を洗ったり、コップを片付けたりと、一緒に行っている。また、職員が郷土料理の作り方を教わりながら、実際に調理することもある。季節毎に旬の食材を採り入れた献立としている。	

事業所名 : 認知症高齢者グループホームさんりく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量を観察し記録している。毎日の献立は調理担当の職員がバランスを考えて提供し、毎月管理栄養士に献立表を提出してコメントを頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けを行い口腔ケアを行っている。一人でできない方には職員が対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、個々の排泄パターンを把握し定期的に声を掛けトイレ誘導を行い、できるだけ現状の状態から低下しないように努めている。また、利用者が尿便意のサインを出すことがあるのでみのがさないようにしている。昼夜の排泄用品の工夫にも努めている。	入居時の把握が大変であるが、一人一人の排泄パターンや特徴を活かした支援を行っている。排泄状態をアセスメントしオムツから布パンツとパッド使用になった入居者もいる。尿意や便意を伝えられない方には、排泄サインを見て対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い排便の把握に努めている。乳製品の提供や体操を行う等工夫している。下剤が処方されている方は主治医の指示通りに服用し有無を確認している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本として曜日を決めて対応しているが、利用者の体調によりずらすこともある。普通浴槽での入浴が難しい利用者には、小規模多機能のリフト浴で対応している。	週2回を基本とし、午後の時間帯で入浴支援を行っている。寛いだ気分で入浴できるように、湯温や入浴時間を気に掛け、昔の事などを話題にしながら入浴している。家庭浴槽を利用できない入居者は、隣接事業所のリフト浴槽を利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は利用者によって居室やソファで休息が取れるようにしている。また、夜間も個々の時間に合わせて、職員と団欒しながらゆっくり入眠できるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は看護師が行い、誤薬防止の為必ず職員2人で確認してから服用させている。薬の効能や副作用について看護師から介護員へ説明を受け把握に努めている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームさんりく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナの感染症対策で外出が少なかったため、室内での活動が多かった。作品作りや歌を唄ったり、小規模多機能へ行き、馴染みの人達と会話をしたりゲーム等を行い楽しませている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの感染症対策により外出の機会は少なかったが、家族の協力で馴染みの美容室を利用したり、お墓参りができるように支援している。	例年は、道の駅での買い物やドライブに出かけていたが、コロナ禍の感染予防対策で外出の機会が減っている。その様な中でも、感染症対策を講じながら、馴染みの美容室を利用したり、亡き夫の納骨に出掛けている方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の中でも少額でも持っているという方もいるので所持させている。また、家族からお小遣いとして事業所で預かり、欲しい物がある時はお小遣いの中から購入している。家族には毎月「金銭出納簿」「確認書」を送付し確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から家族に電話を掛けたいと希望があるので対応したり、家族から電話が来た時は取り次ぎゆっくり話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内温度は利用者に合わせて調整し定期的に換気を行っている。利用者はホールで過ごす時間が多く、目の前で調理を行っているので匂いや音を感じている。また、季節感を出すためにホール内の装飾も毎月工夫している。	建物内は、エアコンや床暖、加湿器を使用し空調管理を行っており、時節柄、定期的に換気を行っている。食堂兼談話室の共有スペースには、利用者が作成した季節を感じる作品が飾られ、キッチンが設えてあるため、生活感が醸し出されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂ホールやソファで自由に過ごしたり、小規模多機能へ行ったりと利用者の状態や思いに合わせて過ごしている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームさんりく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	入所時に自宅で使い慣れた家具や馴染みの物 を持ち込めることを説明している。また、利用者 が作品作りした物を居室に飾ったり、家族から届 いた写真を飾っている。	居室は、床暖房やエアコンで空調管理しており、 ベッド、洗面台、チェスト、椅子が備え付けられて いる。入居時に馴染みの物を持ち込めることを説 明している。入居者は、自作の作品や写真を 飾ったり、遺影を置いている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	施設設備は安全面に配慮した作りとなっている。 利用者の居室入口に名前を張ることで自分の部 屋とわかるようになったり、トイレ入口に張り紙す ることで一人で行くことができる利用者もいる。危 険な箇所は職員が把握するように努めている。		